

No.
01

ELPA Vision

Photo by Nayalan Moodley

〈英語プレイスメントテスト〉 13年間の分析と英語力の経年変化

ELPA 事務局長
白戸 治久

清泉女学院短期大学
中村 洋一

立命館大学
清水 裕子

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-4 大江ビル1階

TEL : 03-3230-0571 FAX : 03-3230-0572

<http://npo-elpa.org> elpa@english-assessment.org

第二版 2016年6月10日刊行

特定非営利活動法人 (NPO)

ELPA
英語運用能力評価協会

ACE/BACE/JUMPのご案内

ACE 概要

受験対象

中学校・高等学校・高等専門学校
短期大学・大学の全学生

レベル設定

中学既習事項からセンター試験レベルまで

テストの構成 (問題はすべてマークシート形式です)

設問数 全 **98** 問

試験時間 **80** 分
実施時間

採点方法 **0-900**
点のスコア制

内訳	内容	設問数(問)	時間(分)	スコア(点)
Part 1	リスニング	30	35	300
Part 2	語い・文法	48	15	300
	リーディング	20	30	300
合計		98	80	900

ACE

実施料：1,250円
(税別)

受験対象

基礎英語学習者全般、高等学校新入生

レベル設定

中学既習事項の基礎英語中心

BACE 概要

BACE

実施料：750円
(税別)

テストの構成 (問題はすべてマークシート形式です)

設問数 全 **40** 問

試験時間 **45** 分
実施時間

採点方法 **0-300**
点のスコア制

内容	設問数(問)	時間(分)	スコア(点)
リスニング	12	15	100
語い・文法	16	10	100
リーディング	12	20	100
合計	40	45	300

受験対象

中学1・2・3年生

レベル設定

到達度に合わせて3つのレベルが選べます。

レベル1：英検5級レベル、レベル2：英検4級レベル、レベル3：英検3級レベル

JUMP 概要

テストの構成 (問題はすべてマークシート形式です)

設問数 全 **50** 問

試験時間 **45** 分
実施時間

採点方法 **0-300**
点のスコア制

内容	設問数(問)	時間(分)	スコア(点)
リスニング	18	15	100
語い・文法	22	10	100
リーディング	10	20	100
合計	50	45	300

JUMP

実施料：各370円
(税別)

◆各種テストのお申し込み・お問い合わせ◆

NPO法人 英語運用能力評価協会 (ELPA)

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-4 大江ビル1階

TEL: 03-3230-0571 (9:00~17:00受付、土・日・祝祭日を除く) FAX: 03-3230-0572 (24時間受付)

e-mail: elpa@english-assessment.org HP: <http://npo-elpa.org/>

特定非営利活動法人 (NPO)

ELPA
英語運用能力評価協会

＜英語プレイスメントテスト＞

13 年間の分析と英語力の経年変化



ELPA 事務局長
白戸 治久



清泉女学院短期大学
中村 洋一



立命館大学
清水 裕子

はじめに

特定非営利活動法人英語運用能力評価協会（Association for English Language Proficiency Assessment：ELPA）では、協会の活動のひとつとして英語運用能力評価テストの開発と実践・運営を行っており、現在までに、中学生向けに「JUMP」、高校生向けに「ACE」・「BACE」、大学生向けに「英語プレイスメントテスト」を開発し、実用に供してきている。また、毎年問題の検証を行いながら、良質な問題で構成されたテストパッケージについては、テストの再利用を数年ごとに行っている。本稿では、その中の大学1年生の入学時に実施された「英語プレイスメントテスト」を取り上げ、2008年と2015年に使用された同一のテストによる結果を比較しながら、項目分析や経年変化を分析し、考察する。

1

「英語プレイスメントテスト」について

「英語プレイスメントテスト」はELPAが開発した大学向けクラス分けテストで、主に4月に実施されている。2003年4月のELPA設立以来、100を超える大学・短大・専門学校で活用されており、受験者累計は50万人を超える。本テストは事前に数万人規模で実施されたパイロットテストの結果を項目応答理論（item response theory：IRT）により検証し、さらに大学入学時のレベル分けテストとして機能させるために、正確で適切な順序となるように項目の並び替えを行い、どのレベルの受験者についても信頼できるスコアを提供することを目的として作成されている。また、大学入学時の学生を対象とするため、言語材料は中学・高校での既習事項範囲で設計されており、難易度もおおそ実用英語技能検定（英検）2級レベルとなっている。

1.1 テストの概要

前述の通り、「英語プレイスメントテスト」は大学入学時のレベル分けを主たる目的として開発されたテストで、項目数60、実施時間60分、得点の範囲は0点～300点となっている。標準的な測定レベルは英検3級～2級、TOEIC® 300点台～700点程度である。なお、受験者の各項目への応答に項目応答理論を適用し、各パート毎にラッシュモデルにより受験者能力を推定し、それをもとに尺度化した数値を「得点」としている。

本テストはリスニング、語彙、文法、リーディングの4種の下位テストから構成されるが、語彙および文法はひとつのパートとして出題されている。パート毎の項目数と時間配分は表1の通りである。

〈表 1〉「英語プレイスメントテスト」の構成

パート	項目数	時間配分	得点
1 リスニング	14	20 分	100 点
2 語彙・文法	30	15 分	50 点×2=100 点
3 リーディング	16	25 分	100 点
合計	60	60 分	300 点

1.2 実施実績

「英語プレイスメントテスト」の 2003 年以降の実施実績は表 2 に示す通りである。また、各年の合計と下位テスト毎の平均点を示しておく。

〈表 2〉英語プレイスメントテストの実施実績（4 月実施分の受験者数と平均点）

年	受験者数	平均	リスニング	語彙	文法	リーディング
2003	4,443	160	51	28	28	53
2004	8,058	161	58	26	24	53
2005	9,397	161	53	29	27	52
2006	13,254	150	51	28	26	45
2007	16,254	151	55	24	24	48
2008	16,521	160	55	27	25	53
2009	23,963	174	60	31	27	56
2010	18,085	167	53	29	29	56
2011	14,598	147	50	26	25	46
2012	17,833	159	53	28	27	51
2013	15,133	160	49	29	31	51
2014	19,871	164	58	28	26	52
2015	11,448	171	57	30	27	57

2

分 析

〈図 1〉 2008 年・2015 年 4 月実施得点分布表

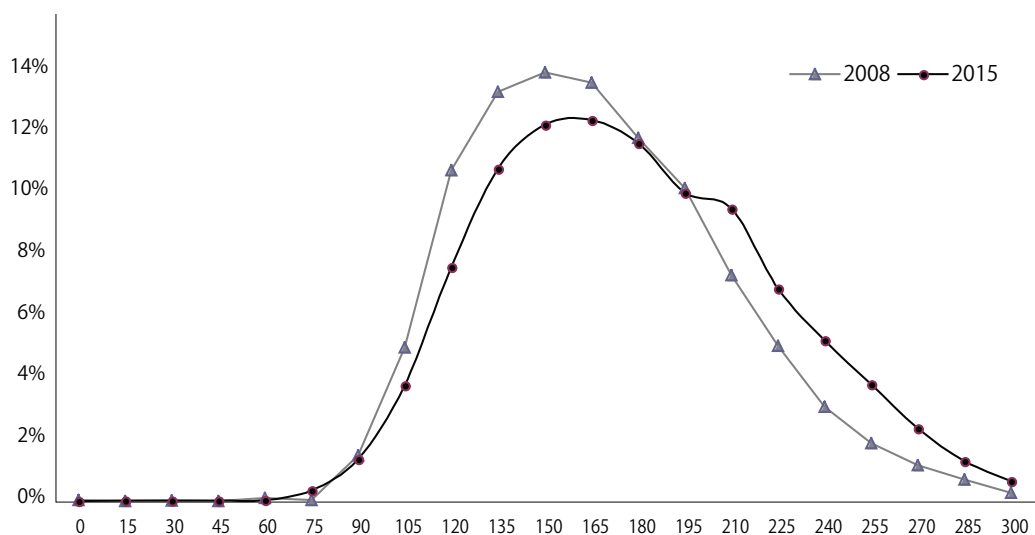


図 1 は、横軸を得点、縦軸を受験者の割合とした 2008 年と 2015 年の度数分布である。やや右に広がっているが、ほぼ正規分布していることがわかる。

今回の分析では、古典的テスト理論にのっとった項目分析のうち、正答率のみを用いて 2008 年と 2015 年の入学者の解答傾向を見ていくことにする。各パートの結果から解釈すると、全体的に見て、2015 年入学者の正答率が高くなっており、本テスト 60 項目の正答率の平均値は、2008 年が 52.5%，2015 年が 57.4% で 2015 年が約 5 ポイント高かった。プレイスメントを目的とするようなテストである集団規標準準拠テストの場合、正答率の平均値が 50% 程度であるのが理想とされているが (Brown, 2005)，正答率を見る限りでは、両年ともに集団規標準準拠テストとして適切に機能していると解釈できる。次に、パート毎の分析結果を報告する。

2.1 リスニング

「英語プレイスメントテスト」のパート 1 はリスニング・テストであり、解答時間は 20 分間に設定されている。リスニング・テストは合計 14 項目から成り、2 つのセクションに分かれている。セクション 1 (項目 1～8) は、英語の質問と 3 つのイラストが問題冊子に印刷されており、音声情報 (1 回だけ放送) をもとに正解のイラストを選ぶ形式である。セクション 2 (項目 9～14) は、簡単な説明と質問が日本語で示されており、図やグラフなどの視覚情報を見ながら英文を聴き (2 回放送)、質問の答えとして適しているものを 4 つの選択肢から選ぶ形式である。リスニング・テストの正答率の平均は 2008 年が 54.8%，2015 年が 57.0% で、両年間の有意な差は見られなかった ($t(26) = -.339, p = .737$)。

表 3 は、2008 年と 2015 年の同一項目の正答率とその差を示したものである。

〈表 3〉リスニング・テストの正答率 (%)

セクション 1								
年	1	2	3	4	5	6	7	8
08	76.7	73.0	71.9	63.6	52.4	45.9	42.3	38.0
15	76.7	75.2	74.4	65.8	52.8	38.9	44.4	35.9
差	0.0	2.2	2.5	2.2	0.4	-7.0	2.1	-2.1

セクション 2						
年	9	10	11	12	13	14
08	82.6	64.2	29.0	49.2	42.3	36.9
15	84.8	68.4	34.5	55.9	45.8	44.9
差	2.2	4.2	5.5	6.7	3.5	8.0

特にセクション 1 の最初の 3 問は、両年とも 70% 以上の高い正答率となっており、「英語プレイスメントテスト」全体の導入項目としても機能していると言える。セクション 1 については、項目 1～3 の比較的易しい問題に始まり、項目が進むにつれて難易度が増す傾向にある。2008 年と 2015 年の正答率の差は 2 ポイント前後で、2015 年がやや高い数値を示しているが、項目 6 と項目 8 では逆転しており、特に項目 6 については 7 ポイントの差があった。この項目は、日本在住の米国人が、祭りで太鼓をたたき、参加者がそれに合わせて踊りを踊る話の中で、Q: What will the man do at the festival? という設問に対して、太鼓をたたいている絵を選ばせるものであるが、2015 年の受験者については、半数以上の 52.9% が誤答である③ (踊りを踊っている絵) を選んでいる。発話の中の次の表現 (下線部) に惑わされたものと言えよう。M: Well, Emma, as you can see, I'm with some Japanese children. We are going to play the drums. We hope everybody will enjoy dancing to our drums ….

〈表4〉項目6の各選択肢の選択率（％）

	2008 年	2015 年
①(神輿をかついでいる絵)	12.1	7.9
②(太鼓をたたいている絵) [正答]	45.9	38.9
③(踊りを踊っている絵)	41.7	52.9
選択肢以外の番号	0.1	0.1
未記入	0.2	0.1
複数解答	0.0	0.1

なお、セクション1のみの正答率の平均は2008年が58.0％、2015年が58.0％で、両年は同様の結果であった。

セクション2では、最初の項目（項目9）が両年とも高い正答率を示し（2008年：82.6％、2015年：84.8％）、本セクションの導入項目となっているが、セクション1に比べると、全体としては難易度が高くなっている。セクション2の2008年の正答率平均は50.7％、2015年は55.7％であった。項目11・12および項目13・14は、それぞれ同じ情報をもとに2つの質問に答える形をとっているため、情報の処理量を増大させ、正解を導くことをより困難にしていると言えるが、2015年受験者は、2008年受験者よりもこの形式に対して柔軟に対応できたと推察できる。

2.2 語彙・文法

20分間のリスニング・テストの次には、30項目から成るパート2として語彙・文法テストが15分の時間配分で配置され、解答時間はCDでコントロールされている。語彙・文法テストは4つの選択肢から適切な語・語句・文を選ぶ空所補充形式で、30項目のうち、奇数番号の項目が語彙項目、偶数番号の項目が文法項目である。配点は文法50点、語彙50点である。なお、18項目がダイアログ、12項目がモノローグの設定である。語彙・文法テスト合計の正答率平均は2008年が51.8％、2015年が57.6％で、5.8ポイントの差はあるものの、有意な差は見られなかった

($t(58) = -1.440, p = .155$)。また、単純比較ではあるが、語彙項目の平均点で7ポイント程度、文法項目の平均点で5ポイント程度、2015年のほうが高い数値となっている。

表5は、2008年と2015年の同一項目の正答率とその差を示したものである。

〈表5〉語彙・文法テストの正答率（％）

年	1	2	3	4	5	6	7	8
08	81.6	70.8	78.4	70.5	68.6	66.9	55.0	60.6
15	84.7	76.4	85.0	75.6	75.0	73.7	52.6	65.6
差	3.1	5.6	6.6	5.1	6.4	6.8	-2.4	5.0

年	9	10	11	12	13	14	15	16
08	53.7	50.7	52.9	58.3	60.7	56.8	62.6	48.7
15	61.3	55.4	55.3	64.2	81.9	63.5	65.4	48.7
差	7.6	4.7	2.4	5.9	21.2	6.7	2.8	0.0

年	17	18	19	20	21	22	23	24
08	48.2	51.7	58.7	41.2	41.9	41.6	42.7	45.6
15	55.7	57.2	67.5	46.4	50.1	48.8	49.7	49.4
差	7.5	5.5	8.8	5.2	8.2	7.2	7.0	3.8

年	25	26	27	28	29	30
08	35.1	42.6	29.4	34.0	26.9	17.5
15	37.7	48.2	33.1	39.5	39.4	19.9
差	2.6	5.6	3.7	5.5	12.5	2.4

リスニング・テストと同様に、はじめの項目は正答率平均が80％～70％で比較的易しく、後の項目になるにつれて正答率平均が低くなり、困難度が高くなる傾向を示している。項目応答理論による困難度パラメータの検討を行ってテスト作成をしている成果と言えよう。

2008年、2015年ともに正答率平均が最も低く困難度の高い項目は文法項目の30で、be pleasantに続く根拠を示すto-不定詞の副詞的用法の後ろに群動詞として後置する前置詞を必要とする問題である。

〈表 6〉項目 30 の各選択肢の選択率（％）

	2008 年	2015 年
① for -ing	27.9	27.7
② for -ing + 前置詞	26.3	28.2
③ to- 不定詞	24.2	21.1
④ to- 不定詞 + 前置詞 [正答]	17.5	19.9
未記入	4.0	2.9
選択肢以外の番号	0.1	0.1
複数解答	0.0	0.0

全体的に 2015 年の正答率が 2008 年の正答率よりも高い数値を示しているが、項目 7 のみが低い数値となっている。項目 7 は熟語に含まれる前置詞を選択する語彙問題であったが、両年の差は 2.4 ポイントであり、それほど大きな変化の特徴は見られなかった。

両年の正答率の差が最も大きかった項目は語彙項目の 13 で、2008 年が 60.7％、2015 年が 81.9％と、2015 年の方が 21.2 ポイント高かった。

〈表 7〉項目 13 の各選択肢の選択率（％）

	2008 年	2015 年
① add	11.8	5.3
② compare	17.4	7.2
③ quit	9.6	5.1
④ share [正答]	60.7	81.9
未記入	0.4	0.2
選択肢以外の番号	0.1	0.2
複数解答	0.0	0.0

2008 年の受験者、2015 年の受験者ともに、旧教育課程のもとで学んだ大学入学生である。しかし、2015 年の受験者においては、2013 年施行の現教育課程への移行措置期間に中学校・高等学校での教育を受けていることから、高等学校までの英語授業で提示される言語項目の変化によって、語彙の定着が促進された可能性も推測される。

2.3 リーディング

最後のパートであるリーディング・テストは、9 種の英文をもとにした四肢択一形式の 16 項目の設問に

解答するものであり、解答時間は 25 分間の設定となっている。表 8 にまとめた通り、与えられる英文の種類は広告、日記、手紙文などを含め多岐にわたり、加えてフォントが工夫されたり、図や写真などが活用されている。1 つの英文の長さは 31 語～ 269 語で、問題文の合計語数は 1,184 語であった。また英語の読み易さの指標として Flesch-Kincaid Grade Level を用いて Readability を分析したところ、3.6 ～ 9.8 の範囲で平均 6.3 であった。語彙については、大学英語教育学会（英語語彙研究会）が発表した語彙リストである「JACET8000」の 8 レベルのうち、固有名詞以外でレベル 5 以上のものは次の 14 語であったが、高等学校までの学習内容を大きく逸脱するものはないと言える。

レベル 5: viewpoint, sincerely, injured, missing,

bounce, galaxies

レベル 6: elder, paradise

レベル 7: careless, telescope

レベル 8: candies, downtown, shuttles, sensor

リーディング・テストの正答率の平均は 2008 年が 51.7％、2015 年が 57.5％で、5.8 ポイントの差はあるものの、統計的な有意差は観察されなかった ($t(30) = -.863, p = .395$)。

〈表 8〉リーディング・テストの英文の長さ と Readability

内容	項目番号	語数	Readability*
広告	1	34	4.2
メッセージ	2	31	3.6
広告	3	58	5.0
日記	4-5	94	5.7
意見投稿	6-7	92	5.3
手紙（やりとり）	8-9	200	8.2
広告	10-11	206	6.1
ニュース	12-13	200	9.8
科学説明文	14-16	269	8.9
合計		1,184	平均 6.3

(*Flesch-Kincaid Grade Level)

表9は、2008年と2015年の同一項目の正答率とその差を示したものである。最初の2項目は、広告とメッセージ文で、文字情報が少ないこともあり、正答率はどちらの年でも80%を超えていた。項目4以降は、1つの英文に対して質問が2つあり、最後の英文のみ質問が3つある。2008年と2015年の差が特に高かったのは項目8・9および項目10・11で、両者に共通するのは、解答の際に、異なる2つの情報源を読み比べながら必要な情報を収集しなければならないということであった。

〈表9〉リーディング・テストの正答率（％）

年	1	2	3	4	5	6	7	8
08	84.9	82.2	52.5	67.4	74.5	56.2	46.0	36.5
15	89.1	85.6	56.4	73.8	80.0	63.0	52.6	44.0
差	4.2	3.4	3.9	6.4	5.5	6.8	6.6	7.5

年	9	10	11	12	13	14	15	16
08	60.9	49.4	45.0	45.9	43.3	18.0	26.5	38.1
15	67.3	58.1	52.1	52.2	49.9	17.7	32.6	44.9
差	6.4	8.7	7.1	6.3	6.6	-0.3	6.1	6.8

〈表10〉英語教育の動向と平均点の単純比較

年	平均	リスニング	語彙	文法	リーディング	高校英語教育の動向
2003	160	51	28	28	53	ゆとり教育開始
2004	161	58	26	24	53	
2005	161	53	29	27	52	
2006	150	51	28	26	45	センター試験リスニング実施 ゆとり教育開始後初の卒業生
2007	151	55	24	24	48	
2008	160	55	27	25	53	
2009	174	60	31	27	56	
2010	167	53	29	29	56	
2011	147	50	26	25	46	
2012	159	53	28	27	51	
2013	160	49	29	31	51	
2014	164	58	28	26	52	
2015	171	57	30	27	57	新教育課程施行開始
2016	--	--	--	--	--	

最後の英文は科学的な内容で、特に項目14では正答率が両年共に20%を切っていた。また項目12以降、わずかではあるが無解答が増えており、時間配分の要領を得ない者や、備えている読解力に比して、処理すべき英文の量が多い学習者が存在するといえよう。

2.4 英語教育の動向と平均点の単純比較

表10は、表2の実施実績のデータに英語教育の動向を加えたものである。本稿の関心事である、同一問題で実施した2008年と2015年の平均点を単純比較すれば、若干ではあるが、すべてのパートで2ポイント程度、2015年の方が高くなっている。

2003年からの平均点を単純比較して言えば、大きな変化は認められないと言えよう。ただし、旧教育課程のもとで学んだ最後の卒業生である2015年受験者の数値が、その前年（2014年）の受験者と比べて7ポイント高くなっており、この変化を始まりとして、新教育課程による英語教育の成果がどのような数値となっていくのか、経年比較を続けて検証していくことが必要であろう。

おわりに

本稿では、ELPA が 2003 年より実施してきた「英語プレイスメントテスト」を取り上げ、2008 年と 2015 年に使用された同一のテストフォームによる結果の比較を行った。

リスニング・テストでは、全体的に正答率が向上していることから、リスニングの指導が定着しつつあることが伺える。しかし、2015 年 4 月に入学した受験者が受けた同一項目のひとつで、2008 年 4 月に入学した受験者よりも低い正答率を示した項目があった。細部の情報について正確に聞き取る学習が必要であろう。

語彙・文法テストでもやはり、全体的に正答率が向上していることが認められた。2015 年 4 月に入学した受験者が受けた同一項目のひとつで、2008 年 4 月に入学した受験者よりも 20 ポイント以上高い正答率を示した項目があった。より多様な語彙・文法項目の学習を継続していく必要があるだろう。

リーディング・テストでも全体的に正答率が向上していることが認められた。しかし、科学的な内容の読解問題で、正答率が両年共に 20% を切った項目があった。言語材料の学習と平行して、英語「で」読み取る技術を向上する必要があるだろう。

また、「英語プレイスメントテスト」の開発過程で検討した項目応答理論による困難度パラメータを鑑みた配置は、困難度の低い項目から高い項目へと適切に機能していた。「英語プレイスメントテスト」は、paper and pencil バージョンではあるが、CBT, CAT 化も視野に入れ、さらに分析・検討を継続し将来的なテスト開発に結びつけていきたい。

参考文献

相澤一美・石川慎一郎・村田年編. (2005). 『大学英語教育学会基本語リストに基づく JACET8000 英単語』. 東京：桐原書店.

American Educational Research Association, American Psychological Association and National Council On Measurement in Education. (2014). *Standards for educational psychological testing*. American Educational Research Association.

Brown, J. D. (2005). *Testing in language programs: A comprehensive guide to English language assessment (New edition)*. New York: McGraw-Hill.

Council of Europe. (2001). *Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

《ACEテストと他のテストとの成績比較表》

☆ ACEテスト スコア	レベル	① STEP英検	② TOEIC Bridge [®] スコア	③ TOEIC [®] スコア	④ 英語プレイスメント スコア
900	レベル7			750以上	
860					
820					
800		準1級取得平均スコア			
780				730	
760	レベル6			700	
740				680	300
720				640	290
700				600	280
680				560	270
660	レベル5			540	260
640		2級取得平均スコア		520	250
620				500	240
600			150	480	230
580				460	220
560	レベル4			440	210
540			140	420	200
520		準2級取得平均スコア		400	190
500	レベル3			390	180
480				380	170
460		3級取得平均スコア		370	160
440	レベル2		130	350	150
420				340	140
400				330	130
380			120	320	120
360	レベル1			310	110
340				300	100
320以下				290	100未満
				280以下	

大学入学時
平均スコア
150～160

高等学校入学時
平均スコア440

- * 英検①とACEとの関連は、アンケート結果（148,082名）に基づいています。
- * ACEと英語プレイスメント④の関連は、それぞれの関係を表す英語運用能力評価協会所有のデータを利用して作成したものです。
- * 英検①とTOEIC[®]③取得者の関係は、それぞれ英検準1級⇒732、英検2級⇒517、英検準2級⇒392、英検3級⇒365 となっています。（TOEIC運営委員会の資料より）
- * TOEIC[®]③と、TOEIC Bridge[®]②のスコア関係は、それぞれ470⇒150、395⇒140、345⇒130、310⇒120 となっています。（TOEIC運営委員会の資料より）
- * この表は、ACEと英検やTOEIC[®]の両方、同時受験者を調査したデータではありませんので、あくまで推定値であることをご了承ください。

特定非営利活動法人（NPO）

ELPA
英語運用能力評価協会



コンピュータを使った ELPA のテストシステム

IELCA

ELPA Computer-Based Assessment

ELPA
<http://www.english-assessment.org>

IELCA はコンピュータを使って実施していただくテストです。
大学入学時のクラス分けテスト（プレイスメントテスト）や定期テスト、
検定・資格試験前の実力把握などにご利用いただけます。

テスト資料 コンピュータで受験のため、無し

採点 解答データを受け取り次第即採点

場所 WEB 環境があればどこでも実施可能

受験データ WEB 上に表示
Excel データをダウンロード可能

受験形式 個別に受験

CBT 型テストシステム

IELCA はコンピュータを利用して行う
CBT（Computer-Based Test）型テストです。



IELCA 受験料

※IELCA のお申し込みは学校・団体からのみです。

アカウント発行数	受験料金	超過時の 1 アカウント単価
100 アカウント	90,000 円	900 円
300 アカウント	240,000 円	800 円
500 アカウント	350,000 円	700 円
1,000 アカウント	600,000 円	600 円

◆IELCA についてのお申込み・お問い合わせ

NPO 法人 英語運用能力評価協会（エルパ） 〒102-0074 東京都千代田区九段南 4-3-4 大江ビル 1 階
TEL:03-3230-0571 FAX: 03-3230-0572

受付時間（祝日、年末・年始を除く） 平日（月～金） 9:00～17:00

e-mail: elpa@english-assessment.org HP: <http://npo-elpa.org>

クラス分け・レベル分け特化型テスト

英語プレイスメント／英語プレイスメントCore

一人ひとりの実力にあった講義・学習のために すばやく安価なプレイスメントテストを

Placement[英語プレイスメント] は、入学時・学期初めのクラス・レベル分けに特化してつくられたテストです。正確な英語力診断で、すばやく成績データをご提供しますので、短時間で適切に目的別のグループ分けを行うことが出来ます。

① コンパクト＆スピーディ

4分野の質の高い問題をコンパクトにまとめた構成なので、短時間で英語力のレベルを測ることが出来ます。

② クラス分けに最適

20万人以上のデータを分析し、弁別度の高い問題を採用。正確な実力レベルが測れ、学生が同一得点に集中することもあります。

価 格

900 円 (税別)
[リスニングなし : **700 円 (税別)**]

650 円 (税別)
[リスニングなし : **550 円 (税別)**]

※双方とも実施人数でのご請求です。

レベル

大学入学時標準英語範囲
英検 3 級～英検 2 級
TOEIC 300 点台 ～ 700 点 程度

大学入学時／基礎英語学習者全般
英検 4 級～準 2 級

概 要

- ・テスト冊子 × 1 冊 / CD × 1 枚
- ・マークシート形式
- ・名簿データのご送付、もしくは登録用紙の記入が必要となります。

※ 8 桁の数字の受験番号を記入。学籍番号が 8 桁以外もしくはアルファベットがある場合はお問い合わせ下さい。

▶ テスト内容 ◀

英語プレイスメント		内 容	問題数	時 間	スコア
Part1	リスニング	大意把握問題	8 問	20 分	100
		情報収集問題	6 問		
Part2	語い・文法	英文のコンテキストを理解したうえで 語い・文法知識を運用する力を見る問題	30 問	15 分	100
	リーディング	大意把握、情報収集、要約、パラフーズなどの技術を用いて解く速読型の問題	16 問	25 分	100
合 計			60 問	60 分	300

英語プレイスメントCore		内 容	問題数	時 間	スコア
Part1	リスニング	大意把握問題	6 問	15 分	100
		情報収集問題	6 問		
Part2	語い・文法	英文のコンテキストを理解したうえで 語い・文法知識を運用する力を見る問題	16 問	10 分	50
	リーディング	大意把握、情報収集、要約、パラフーズなどの技術を用いて解く速読型の問題	12 問	20 分	100
合 計			40 問	45 分	250

※実施時間はすべて CD で管理されています。

◆各種テストのお申し込み・お問い合わせ◆

NPO法人 英語運用能力評価協会 (ELPA)

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-3-4 大江ビル1階

TEL: 03-3230-0571 (9:00～17:00受付、土・日・祝祭日を除く) FAX: 03-3230-0572 (24時間受付)

e-mail: elpa@english-assessment.org HP: <http://npo-elpa.org/>